



ベランダにあった小さな“自然” キャッスルガーデン

（こどもの城）はビルが立ち並ぶ都心部にあります。保育活動をはじめたときから、自然とかがわるプログラムをどのように進めていくかが課題でした。開院して数年たったころ、鳥が運んできたモ子木の木の種がベランダの片すみで芽をだしました。コンクリートとアスファルトに囲まれた場所の、わずかな土から緑が育ったのです。

「ベランダに落ち葉や飛んできた土ぼこりがたまって、汚れが目立ってきたので、どうしようか考えていたところ。シートをめくるとダンゴ虫がいっぱいいたり、雑草が芽をだしていたり— けっこう楽しい場所だということに気づいたんです」と保育のスタッフ。このことがきっかけとなって、ベランダを利用した庭作りが始まりました。保護者をはじめいろいろな人の手を借りて、すこしずつ植えるものを増やしていきました。プランターや空の容器を使った「かわいらしい庭」は「キャッスルガーデン」と呼ばれています。



ふれて、遊べる植物を植える

ながめて楽しんだり、理科の観察をするのではなく、子どもたちがおもいっきり自然を体験できる場所にしたいと考えました。花をつんで作った色で紙や布を染めたり、ままごとに使ったり—遊びに使えるもの、トマトやイチゴ、スイカのように実がなつて食べられるものを選んで植えました。身近にある自然に目をむけて、街のなかで暮らしている私たちも自然のなかで生きていること、自然とともに生きることに気づいてほしい、と考えたからです。

「子どもたちは、種まきや採り入れなどの作業は大好き。しかし、植物を育てるには何度も手をかけなければならず、時間がかかります。すぐには結果がでない。毎日毎日少しずつ育っていくようすを見守りながら、根気よく世話しなければならぬ。たいへんなことです。そういうことも含めて“自然”だと思えます」と保育のスタッフ。「意識をして周りを見れば、街のなかでも“自然”を見つけることができます。狭いところにも“自然”を作ることができます。私たち人間も、自然の一員であることを感じとってほしいという願いをこめ、自然と親しむ活動を行っています。

“街”でみつけて、“自然”を楽しむ

【こどもの城】の保育活動から

“自然”という言葉から、私たちはなにを思い浮かべるでしょう。一面に緑が広がる森や野原、その間をぬって流れる清流、あるいははてしなく広がる大海原— 私たちが暮らしている“街”とは別の世界を思い浮かべることが多いと思います。でも、少し気をつけて私たちの周りを見てみると、みちばたや空き地でさまざまな緑を見つけることができます。ベランダに菜園やハーブ園を作っている家もあります。これらも“自然”ではないでしょうか。

（こどもの城）の保育活動では、“街”の“自然”に目をむけ、身近な暮らしのなかで“自然”に親しむ活動を取り入れています。

好奇心いっぱい、楽しく“みちくさ”ウォーキング(散歩)

天気の良い日には、（こどもの城）の周辺に散歩にでかけます。街路樹や道先に植えられた木々、空き地に育つ草や木、道路そばのわずかな土のところに顔をだすタンポポなどの草花— 小さな自然がいっぱいあるのに気づきま。まるい葉っぱもあれば、四角い葉っぱもあります。犬やネコなどの小動物、クモやチョウチョのような昆虫、ミミズに出会うこともあります。

「ウォーキングは、足をしようぶにしたいという気持ちもあるけれど、いろいろなものに興味をもって“みちくさ”することも大切にしています」と4・5歳児担当スタッフ。「葉っぱのうらに産みつけられた虫の跡を見つけたとき、ついてきた保護者が感動していました。子どもは好奇心のかたまり。身近なところにある虫や草、木などに興味を示し、関心をもつことが、成長の次のステップにつながっていくのではないのでしょうか。

2・3歳児の担当者は「なんにでもさわってみたいころ。さわってはじめて、感じるすることができます。あるとき、子どもが葉っぱを取って親のところに見せにきたことがあります。親は話を聞いたあと、葉っぱをポケットにしまって持ち帰り、水に浮かせて親子で楽しんだそうです。ちょっとしたことですが、親子で自然を楽しむすがたが印象に残りました。」



“さわる”“ふれる”“感じる” 砂場

（こどもの城）の建物の裏に、小さな砂場があります。「ねこのひたい」ほどの広さですが、はだして大地を感じることもできるたいせつな場所です。

はじめのうちは、砂場に入ることをためらう子どももいます。なれてくると、手や足をまっくろにして、服が汚れるのを気にしていた子どももむちゅうになって砂場遊びを楽しみます。“さわる・ふれる・感じる”ことで、世界を広げていきます。

「ふだんの生活では、どろ遊びなどは汚れるからダメ! となってしまう」と保育のスタッフ。「自然というのは、きれいなもの、美しいものばかりとはかぎりません。土や砂をいじれば、体も服もよこれるのがあたりまえ。自分も子どもも“自然の一部”だ、という発想が欠けているのではないのでしょうか。」

（こどもの城）の保育活動では、“街”のなかの自然”に気づくこと、そしてそれをたいせつにしなが、自然と親しみ、自然と遊ぶ活動を行っています。

【保育クラブ】フリー会員募集

子どもに集団遊びを体験させたい、親の経験がほしい— など、一時的に保育を利用したいと考えている人を対象に、「保育クラブ」のフリー会員を募集しています。対象は、2～5歳児（平成8年4月2日～12年4月1日生まれ）。

【お問い合わせは、保育研究開発部】
☎03-3797-5669 へお問い合わせください。